

TIA ナノバイオサマースクール開催報告

9月7日～8日、TIA連携大学院としては初めてのTIAナノバイオサマースクール（糖鎖・レクチン）がお茶の水女子大学にて開催されました。企画・運営を担当された国立研究開発法人産業技術総合研究所 創薬基盤研究部門細胞グライコーム標的技術グループグループ長 館野浩章上級主任研究員にお話を伺いました。

全ての細胞を覆う糖鎖は生命に必須の生体分子であり、最近では医療分野において大きな注目を集めています。授業では十分に学ぶ機会がありません。そこで、糖鎖と糖鎖認識分子であるレクチンの基礎から応用について学んでいただき、糖鎖への理解を深めるとともに、新たなことに挑戦する意欲を高め、広い視野を取得することを目的とし、糖鎖、レクチンについて学びたい学生や社会人の方を対象として、平成29年9月7～8日の2日間、「TIAナノバイオサマースクール（糖鎖・レクチン）」と題して、お茶の水女子大学でサマースクールを開催しました。企業、研究所、大学などの若手研究者、大学院生、大学生など38名が全国から参加しました。

第1日目は「糖の起源、本質、応用」について、産総研の平林先生、新聞先生、浅田先生、そして東洋大学の宮西先生の4名の講師が講義を行いました。糖鎖の構造や起源等の基礎についてじっくりとわかりやすく講義をして頂きました。講義の後、受講者全員が一人3分で研究紹介を行いました。3分という短い時間でしたが、しっかりとわかりやすく研究内容について説明をして頂きました。夜は講師と受講者全員が参加し、交流会を開催しました。受講者と講師の交流を行うことができ、講師への質問も弾んだようでした。第2日目は「レクチンの起源、本質、応用」について、帝京大学の笠井先生、東京大学の山本先生、お茶の水女子大学の相川先生、横浜市立大学の関先生、そして産総研の館野の計5名の講師が講義を行いました。レクチンの基礎から応用まで幅広い講義となりました。

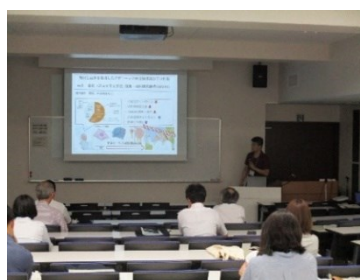
集合写真



講義の最後にはそれぞれの講師の最新の研究成果についても説明していただき、他の講師にとっても刺激となり、新たな共同研究も生まれました。学生からも質問もあり、集中して講義を受けていたようでした。糖鎖とレクチンに関してこれだけ集中的に講義を受けることはないことから、大変貴重であり、また勉強になったという反響を多く頂きました。一方で、学生から社会人までの異なる経歴をもつ方々が参加しており、講義の難易度に対してはそれぞれ異なる印象を持ったようでした。

アクセスの良い東京都文京区のお茶の水女子大学の講義室をお借りすることができたことから、多くの方々に参加頂くことが出来ました。また、産総研TIAより3名の方が2日間にわたり受付をして下さり、スムーズにスクールを運営することが出来ました。糖鎖、レクチンの人材育成という点からも、このような機会を頂いたことに心から感謝申し上げます。皆様の感想を参考に、来年は更に充実したサマースクールを開催できればと思っております。引き続きご支援、ご協力の程、何卒よろしくお願い致します。

講義風景



開催日	2017年9月7日(木)～8日(金)
場所	お茶の水女子大学
主催	産業技術総合研究所TIA推進センター、レクチン利用技術研究会
共催	お茶の水女子大学
参加人数	38名(内 大学院生15名、学部・高専生3名、社会人11名、当日参加9名)